

## Ⅱ. 主要電設資材

### 1. 電線・ケーブルの需要動向

平成21年度（平成21年4月～平成22年3月）の銅電線出荷量は、内需636 967トン（対前年度比12.3%減）、輸出25 505トン（対前年度比23.1%減）、内外需合計で662 472トン（対前年度比12.7%減）となった。需要部門別に出荷を前年度比で見ると、主力の建設・電販部門は273 921トンで、17.1%の大幅減、他は電気機械150 857トンで10.8%減、自動車70 884トンで9.9%減、その他内需は50 789トンで6.4%減となった。通信と電力でもそれぞれ6.9%減、2.4%減、輸出も23.1%減と全部門にわたり前年同期実績を下回る厳しいものとなった。

銅地金は、平成20年度第4半期でのLME相場3 000ドル台への下落一辺倒から一転し4・5月に4 000ドル台、6・7月では5 000ドル台と高騰、世界同時景気後退から回復への期待感や中国の備蓄積み増し、スクラップ不足といった中国要因も大きく影響した。さらに8月以降も6 000ドル台、年明けから7 000ドル台への高値突入となる。また

4月には50万トン前後であったLME在庫も8月には28万トンにまで減少。昨年度に引き続き中国要因に影響され同年7月には地金輸入量298 000トンと対前年同月で3.2倍を示した。しかし10月以降からは中国の輸入減少からLME在庫が増加、年度末には50万トンと回復する。

国内は実体経済の回復兆候が見えないまま、大手メーカーの減産や在庫調整（ヒト・モノ・カネの停滞）状況のまま銅電線出荷量は大きく減少、前年を大きく下回る5トン台/月で推移（平成20年度：63 267トン/月）、これは34年ぶりに年間70万トンを下回るものである。

国内電気銅建値は年度を通し61万円/トンから79万円/トンでの乱高下を繰り返し、世界景気への判断も強弱混ざった状況のまま銅の高値基調は続く。

今後も銅事情は相場と実需の乖離という点で投機主導型、国内市場は住宅着工、工場設備投資や公共事業の低水準状況で推移が懸念される。

(社)日本電線工業会による平成22年度の銅電線出荷量の需要予測は、実質GDP成長率を1.8%増、民間企業設備投資4.4%増、民間住宅着工件数1.0%増とし、部門別では電気機械部門が海外生産シフトによる国内需要減の一方で、エ

第4表 平成22年（2010年）度部門別電線需要見通し

（単位：1 000トン）

年 度 期 部 門	出 荷							
	平成 19年度 (実績)	平成 20年度 (実績)	平成 21年度 (実績)	対前年度比 21/20	平成22年度（見通し）			
					上期	下期	計	対前年度比 22/21
通 信	18.5	19.4	18.1	(%) ▲6.7	9	9	18	(%) ▲0.6
電 力	(16.7) 74.4	(23.0) 74.2	(31.4) 72.5	(36.5) ▲2.3	(12) 36	(10) 36	(22) 72	(▲29.9) ▲0.7
電 気 機 械		(1.3) 169.0	(1.4) 150.9	(7.7) ▲10.7	76	78	154	2.1
自 動 車	94.2	78.6	70.8	▲9.9	33	39	72	1.7
建設・電販		(0.8) 330.4	(0.6) 273.9	(▲25) ▲17.1	134	135	269	▲1.8
その他内需	(3.3) 61.6	(1.4) 54.3	(1.1) 50.8	▲21.4 ▲6.4	(1) 25	(2) 25	(3) 50	(172.7) ▲1.6
内 需 計	(20.0) 826.5	(26.6) 726.0	(34.6) 637.0	(30.1) ▲12.3	(13) 313	(12) 322	(25) 635	(▲27.7) ▲0.3
輸 出	(4.3) 29.6	(2.5) 33.1	(8.2) 25.5	(228.0) ▲23.0	(2) 11	(2) 15	(4) 26	(▲51.2) 2.0
合 計	(24.3) 856.2	(29.0) 759.2	(42.9) 662.5	(47.9) ▲12.7	(15) 324	(14) 337	(29) 661	(▲32.4) ▲0.2

注) 1. ( ) 内はアルミ電線を示し外数。

(社)日本電線工業会調べ)

2. 四捨五入のため、計と合わない場合もある。